

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員が地域密着サービスの役割を理解しており、独自の運営理念を作成している。 ○	運営理念に地域密着サービスの役割は盛り込まれていないが、運営推進会議などを通じて地域の方々にも理解されるように、はたらきかけていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に唱和する他、いつでも目につきやすい場所に掲示して職員は常に理念を念頭に入れ、日々の業務に取り入れ努力をしている。 ○	唱和は今後も継続していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念を大きな用紙に分かりやすく記載して、それを家族や地域の方々がいづ訪れても分かる様に玄関に掲示している。 ○	運営推進会議を通して、地域の方々へ理解を求めたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	見通しの良い場所に立地しており、町内会にも加入している。町内の行事に積極的に参加しており夏祭りなどの大きな行事は、町内と合同で開催している。ボランティアや体験学習の生徒達も受け入れ、交流を深めている。 ○	見学や認知症に関する説明に応じているが、今後も体験学習などに力を入れたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	契約を結んだり解約する際は、十分な説明を行い、必ず利用者や家族に不安な事や疑問点がないか尋ねている。	○	さらにより良いサービスを提供していくよう計画をたてていきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、家族や地域の方々の声をいただき、それをサービスへ反映出来るように努力している。	○	今後は更に内容を充実させていきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場とは運営推進会議等を通じ情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	外部評価の結果は配布しているも、ホームの便り、自己評価までには至っていない。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者及びスタッフは研修等に参加し権利擁護等について学んでいる。当ホームでも実例があり、解決に至っている。	○	今後、勉強会を行っていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修などにより、虐待についての情報、知識をふかめている。言葉による虐待などもないように、職員の言動にも注意している。虐待に関するマニュアルも作成している。	○	今後必要な人がいれば関係者と話し合い、それらを活用出来るように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者と家族に方針等を十分に説明して随時、質問等ないか確認している。	○	今後も理解、納得できるよう努めていきたい
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に意見や悩みを話せるような職員と利用者との信頼関係が築けるように努力している。調理に関する不満はある。	○	意見や不満、苦情等は本人の口からはなかなか言いにくいものだと思うので、普段の会話の中から本人の気持ちや悩み等聞いていきたいと思う。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「記録ノート」を用意、行事やレク、普段の生活の様子を写真や文章で表し、家族にみてもらっている。又、面会の際などは必ず普段の様子や健康状態等報告している。ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明記すると共に意見箱も設置している。	○	今後も継続していきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に家族の方々には面会時に要望や意見を聞くようにしている。ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明記すると共に、意見箱も設置している。	○	意見や不満、苦情等は家族からはなかなか言い出しにくいものだと思うので、こちらからも働きかけていきたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回全体会議、月二回ミニ会議を開き、スタッフの意見や提案を聞き反映させている。	○	今後も継続していきたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整などに関して、事前に職員に知らせ了承を得た上で、調整を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を考慮し、職員間での引き継ぎをまめに行うようにしている。利用者の動揺など、ないように事前に利用者にも説明し、納得してもらっている。新しい職員を配置する際、ケアの統一を引き継げる指導をしている。	○	移動や離職は必要最小限に抑えていきたい。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、研修受講後は報告書を作成している。又、その内容を全体会議で報告し、スタッフ全員に周知している。	○	研修、勉強会を継続していきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者と交流を持つ場に積極的に参加し、関係を深めている。県及び、西北五地区グループホーム協会に加入して情報交換等行っており、それを日々のケアに反映させている。月一回町内のグループホームだけの勉強会も行っている。	○	協会加入、勉強会を継続していきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム敷地内に職員がストレス発散できるようにカラオケや雑談などが出来るスペースを設けている。定期的に交流会なども開き、職員同士の交流も深めている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者はスタッフの日々の状況、現場の状況等把握している。就業規則がある。保育資格をいかした職員配置をしている。面談も行っており、健康診断も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった時は、利用希望者やその家族と面談して身体状況や希望、ニーズ等直接話す機会を設けている。相談を受ける際は、利用を前提とし勧めるのではなく、言葉遣い等に気をつけ、まずはニーズ、希望等を把握するように努力している。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談等、本人と家族がその時点で必要としている支援を見極め、対応できることは柔軟に実行し、すぐ対応出来ないことは対策を検討している。関係機関等の連携を深めている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が安心してサービスを開始出来る様に入居前に見学してもらうほか、十分に話し合いを行っている。	○	より良いサービスを提供することは、今後とも課題として続くので、更なる向上を目指して話し合いをしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の後片付けや草取り、掃除等の日常生活から踊りや歌等、それぞれの得意分野で力が発揮出来るようにスタッフと支えあう関係を築いている。	○	業務に追われ、利用者との関係をくずさないよう職員一同、心にとめてやっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密に取り合い、話しを聞き、家族の思いを把握している。面会時、状況報告をしている。問題が生じた場合、家族の協力を得て解決に努め、本人を支えていく関係を作っている。	○	十分把握しているとは言い難いので今後さらに働きかけたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日々の利用者の様子を面会時や電話、手紙等で伝えている。又、行動等がある場合には家族にも積極的に参加を呼びかけている。入所時の聞き取りでこれまでの関係や家族状況等を把握している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に応じて馴染みの場所に出かけられるように支援している。家族以外の友人、知人等の面会も歓迎している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の仲の良し悪し、人間関係を把握している。孤立しないようにスタッフが間に入るよう配慮している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じてサービス終了後も行事等に参加して下さるよう招待状を送付している。、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	継続していきたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	今後も注意深く観察し、個々の利用者の状態にあわせてケアが出来るように努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	○	問題は何か、重視して作成していきたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	把握してもらう為、今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録する場を設けており、記録された事柄についてカンファレンスなどで話し合い介護計画の見直しにいかしている。介護計画に沿って、月のメでまとめを行っている。		
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩や買い物、通院、外食等、一人一人の希望を聞きながら外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議などで、民生委員と話し合う場をつくったり、消防機関とも訓練を通して関係を築いている。	○	さらに地域の方々に呼びかけていきたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用する入居者はいない。	○	必要に応じて対応していきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所内で解決出来ない困難事例があった時は地域包括支援センターと連携している。	○	今後も協同していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。定期的な受診の他、体調の変化、急変時等はいつでも適切な医療が受けられるように支援している。受診結果等、家族にも伝えている。	○	協力医療機関と連携を結んでいる。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	全利用者ではないが、専門医に相談したり診断、治療を受けられるように支援している。	○	継続していきたい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の普段の様子、状態、持病等を十分に把握した看護師を配置している。24時間いつでも気軽に相談できる。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期に退院できるよう、医療機関と情報交換したり、話し合う体制を整えている。家族とも退院に向けて話し合う体制を整えている。	○	現在利用している、医療機関との体制を整えていきたい。
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的な健康管理や急変時の対応について、利用者や家族、医療機関と話し合いを行っている。スタッフがカンファレンスを行い、家族と本人が望む終末期に向け、統一したケアを行っている。	○	終末期に向け、統一したケアを行っているかまだ十分であるとは言い難い為、今後更に話し合いを重ねて支援していきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームの出来る事、出来ない事を明確にし、チームとしての支援を行っている。	○	さまざまなケースに対応できるようにして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを理解し、ダメージを最小限にするために家族等の協力が得られるように働きかけている。	○	本人のストレスを最小限になるようにしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ全員が個人情報保護法について理解し、秘密保持の契約を交わしている。利用者の言動を否定したり、拒否することなく羞恥心に配慮した言葉がけを行っている。居室前に名前をつけているが、家族の承諾を得ている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中で利用者との関わり、家族からの情報を基に、利用者の希望などを把握している。利用者「わかる力」に応じて説明をおこない、自己決定を促している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を第一に考え、言動を急がせたり、訴えを後回しにしたりしないように希望にそって、支援している。	○	業務に追われ利用者からの希望等が後回しになってしまうことも時々ある為、今後は更に利用者第一ということを頭にいれて支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の好みで衣類を選んだり、その人らしいおしゃれが楽しめるように支援している。理・美容院は、事業所で連絡、調整を行い、送迎支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の好みや希望を取り入れている。下ごしらえや後片付けは可能な限りスタッフと一緒にやっている。昼食はスタッフと一緒に摂っている。会話を楽しみながらさりげなく食べこぼし等サポートしている。	○	今後も継続したい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の好みを把握し、一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう暮らしの中に取り入れている。飲酒は正月のみ提供している。	○	本人希望する飲み物は継続していく。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを記録している。利用者一人ひとりの排泄パターンに応じてトイレ誘導したり、声掛けしている。その際に利用者の羞恥心やプライバシーに十分配慮し、他者に気付かれないように行っている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴となっているが、シャワー浴は本人希望にいつでもできる。利用者の好みに応じて温度調節し、入浴を拒否する利用者には声掛けを工夫したり清拭や足浴を促している。トラブル防止の為、順番はくじ引きを行っている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の出来事、疲れ具合に応じて休憩を取り入れている。眠剤の服用等について家族や医療機関と相談しながら調整している。不眠時は付き添ったり飲み物等を提供するなどして支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や希望、力を把握してそれにあった役割、楽しみや気晴らしを促す働きかけを行っている。	○	今後更に個々のニーズに合わせて支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力量や家族の希望に配慮しながら、自己管理出来る利用者には小遣い程度所持してもらい、自動販売機でジュースを購入したり、ドライブ先でも買い物を楽しめるように支援している。	○	買い物に出かけて支払いができるようにしたい。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の状態にあわせて出来るだけ希望にそった外出が出来るように支援している。	○	ドライブ、買い物は継続していきたい。。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話などから利用者の行きたい場所の把握に努めている。	○	家族とも相談して、遠足等の参加を促しているが、家族の都合がつかずなかなか実現しないのが現状である。今後更に働きかけたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりに何ら制限はなく、自由にやり取りできる。又、利用者宛てに電話が来たとき、あるいは電話をかける際は、子機を利用して自室で電話出来るようプライバシーにも配慮している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は家族の都合に合わせている。面会の際は湯茶等居室に運んでいる。宿泊の希望にも応じている。	○	面会時間の設定はあるが、時間外でも家族の都合に合わせて対応している。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解しており、拘束のないケアに努めている。やもえず行う場合は理由等を記録し、書類作成等を行っている。	○	拘束のないケアを今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵をかけてないが、自動ドアの開閉ボタンが手の届かない位置に設置されている。利用者の外出傾向を察知した場合は必ずスタッフが付き添う等の支援をしている。	○	常に目配りして行きたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通してスタッフは常に利用者を見守りやすい場所について利用者の所在や様子を把握している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみやハリなど危険な物品は管理しているが、本人が一声かければ常に使えるようにしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書の様式があり、事故発生時作成して再発防止に向けた話し合いを行っている。看護師を中心に勉強会を行っている。	○	常に利用者の状況を把握して行きたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生に備えてマニュアルも作成している。	○	勉強会を行って行きたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回以上、日中と夜間を想定した避難訓練を利用者とともにっており、消防署や業者からの協力も得られている。災害時に備え、備蓄品一式そろえている。地区の民生委員に話し避難場所も住民の協力を得、確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時に家族と話し合い説明している。職員同士でも定期的に利用者一人ひとりの生活状況などで話し合っている。		
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックし、月に一度体重測定している。少しの変化でも記録に残し、変化に気付いた際には速やかに情報を伝達し、共有している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録に服用している薬の内容を添付している。薬に変更があった場合は申し送り等で周知している。又、薬による状態変化は医療機関、家族に相談している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	安易に薬にたよらず運動を促し、食材やメニューの工夫を行っている。	○	勉強会を継続していきたい
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔内の洗浄、義歯の手入れを行っている。声掛けや介助により一人ひとりの能力にあった支援をしている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	役場より、カロリー計算出来るサイトを紹介してもらい、バランスの良い献立にしている。食事の摂取量は記録しているも、水分量は一日の目安にて摂っている。当ホームで栄養士いる為、指導、助言を得ている。	○	継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症についてのマニュアルを作成している。それに基づき内部研修を行っている。インフルエンザ予防接種は、入居者とスタッフ全員が行っている。	○	市町村の研修も参加し、勉強しているので常に新しい情報を取り入れてマニュアルの見直しを行っている。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は熱湯消毒、ふきんはハイター漬けにしている。食材の在庫表を作成したり、冷蔵庫の清掃はオスバンを使用し、整理をこまめにする事で衛生面で気をつけ食材を無駄にせず、新鮮な食材を使用している。	○	今後も継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を植えたり、庭園解放して誰でも楽しめる雰囲気をつくっている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフは大きな声や物音をたてないように配慮している。共用の空間は開放的で床がじゅうたんの為、不快な音などなく、季節を感じる草花を飾ったりしている。	○	今後も継続していきたい。装飾につとめたい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを用意し仲間同士ゆっくり団らんできるスペースを確保している。	○	廊下にも椅子を設置していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や茶碗、箸は以前から愛用しているものを出来るだけ使用している。本人希望にて仏壇もおいている。	○	使い慣れたものを持参していない利用者もいるので今後、家族に働きかけたり自分で選んで購入できる機会を設けるなどして支援をしていきたい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は自動で行われているが、さらに毎日の掃除のとき、窓を開けて換気している。各居室に湿、温度計を設置しホールには加湿器を設置している。	○	今後も継続したい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	てすりはつかみやすい位置を考慮して設置されている。車椅子や老人カー、歩行器等を準備して必要に応じて使用している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室のじゅうたんとカーテンの色を変えたり、入口に花や果物、名前を貼り、場所間違いを防ぐ工夫をしている。トイレにはトイレマークを表示している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、ベンチ等用意して利用者が気軽に散歩したり、休憩したり草取りをしたりと活動できるように敷地を活用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

●庭が広くたくさんの木々や草花があり、目で楽しんだり散歩したりしながら季節感を感じることが出来る。
●「記録ノート」というものを準備しており、利用者の日々の様子、行事、レクでの楽しみ、受診の結果等さまざまな事柄を写真や文章で記録している。それを面会時などに家族にみてもらい、ホームでの利用者の様子を伝える手段の一つにしている。
●カラオケの機械を導入して好きな歌を歌ってもらうなど利用者の楽しみの一つになっている。
●年に一度の最大イベントとして夏祭りを開催して家族や地域の方々も招待し、利用者を中心に大きな楽しみとなっている。